

はじめに

I R (Integrated Resort) ≡ カジノを含む統合型リゾート施設誘致の取材を始めたのは、ちようど私が「報道ステーション」を離れた二〇一五年からだ。

石原慎太郎都知事時代からカジノ誘致の話はくすぶってはいたが、世間の反対論も強く、現実的ではないと見ていた。ところが、安倍政権になってから動きがかまびすしくなる。

二〇一四年には、安倍晋三元総理がシンガポールのマリーナベイ・サンズを視察した。米朝首脳会談前夜、金正恩キムジョンウン朝鮮労働党委員長が夜景を見に訪れて一躍その名が知られるようになったカジノ一体型のリゾート施設だ。

自民党は日本維新の会などと組んでカジノ解禁の議員立法（IR基本法）を提出し、二〇一六年の年末に国会を延長、強行採決までして通した。

この時のことを後に、元大阪市長で日本維新の会の共同代表を務めた橋下徹はしもとてつおる氏が大阪

のIR展示会の講演で振り返り、こう述べている。

「IR基本法もね、駄目かと思っただけです。公明党も猛反対して。あの時に、菅官房長官が絶対にやると言っていたが、維新の地に足の着いていない国会議員がそわそわそわわとして、菅さんのところに電話して、『大丈夫ですか、大丈夫ですか』と。菅さんは『やるって言ったらやる。俺を信じろ』とバンと電話を切って、維新の国会議員は『えらく怒られた』なんて言っていたみたいですけど。まあその後、国会がぎりぎりのところまで来て法案どうなるんだと言ったら、国会延長かけてもらって、IR基本法を通してくれたと。やっぱり本気で日本のためには、IR統合型リゾートが必要だということを、安倍さんと菅官房長官は強力なそういう意思を持ってますね」

さらに、カジノを実際に運営する実施法を、これまた二〇一八年の通常国会の会期を延長し、衆参の委員会で強行採決を繰り返した上で成立させた。

国政選挙で勝てば何をやってもいい、そんな風潮になったのは、安倍政権になってからだ。安倍―菅政権と自民党の一強時代が一〇年近く続き、数さえ押さえれば自分たちが民

意だとすり替えて、国民の意見を重視しない。

国権の最高機関は国会だ。だが、社会の変容につながる重要法案は議論を尽くし落としどころを探るといふ概念は、完全に吹き飛ばされた。

アベノミクスの異次元緩和で金をじゃぶじゃぶにして、円安、株高に。景気はいいが、資産価格が上昇して富むのは持てる者ばかり。富裕層が潤えばいざ庶民にも富が滴り落ちるといふトリクルダウンは起きずに、格差が広がる。一人あたりGDPの世界の中での順位は低下し、付加価値を生む力は弱くなり、経済力は落ちている。だが、支持率、株高を維持して選挙で勝利。その数の力で、集団的自衛権を認める安保法制、特定秘密保護法や共謀罪と、知る権利や自由を奪いかねない法律の強行採決を繰り返し、推し進めてきた。カジノもその典型例の一つだった。

法律が通った以上、あとは、各自自治体が誘致を申請して国の認可を待つだけだ。

人口約三七〇万人の大都市横浜市は、多くのカジノ事業者が狙っていた。カジノ推進を
よしひで
してきた菅義偉官房長官のお膝元でもある。

その中で、保守の有力者、〃ハマのドン〃こと藤木幸夫ゆきおさんが菅官房長官、後の総理大臣に、真まことっ向から反旗を翻した。忬そんたく度がはびこる中で、普通ではあり得ない事態が起きたのだ。

これは大きなうねりになる可能性がある。私は経済部時代、横浜に通い、藤木さんの動きを逐一、ニュースや特集で取り上げてきた。

この勝負、一体どうなるのか。いくら実力者とは言え、相手は最高権力者だ。だが、この勝負には大きな意味がある。負けても闘う姿勢は多くの人に勇気を与える。

二〇一九年の〃ハマのドン〃のカジノ反対宣言から、二〇二一年夏の横浜市長選での最後の勝負までを追ったドキュメンタリーを、二回にわたってテレビ朝日で放送した。

二〇二一年一月は「テレメンタリー」という三〇分番組で、また二〇二二年二月には〃ハマのドン〃の人物像を加えた一時間版を、「民教協スペシャル」という番組で放送した。

最後まで闘い切ることができなのか。結果も分からなければ、目の前で起きていることがどうつながっているのか後で判明することも多く、はらはらする取材が続いた。

一時間版では、藤木さんはどんな人物なのか、港で博打ばぐちが行われていた時代背景、闘う

その胆力の原点は何なのかを描こうとした。

最後は相手を押さえ込む結末となった。

「民教協スペシャル」の視聴率は、この一〇年間で最も良く、視聴者からの声は二一一件も寄せられた。〃ハマのドン〃の生き様の価値を国内外で共有してもらえたようで、「テレメンタリー」は二〇二一年度最優秀作品に選ばれ、「民教協スペシャル」は放送人グランプリ二〇二二優秀賞、またドイツの「World Media Festivals (ワールドメディアフェスティバル)」ドキュメンタリー部門で銀賞をいただいた。放送人グランプリは、放送に携わってきた人たちが選ぶアワードで、放送の可能性を追求してきた人たちによる評価だ。海外でも共通の価値を見出し^{みいだ}てもらえたのは嬉し^{うれ}かった。

藤木さんの生き方が引き寄せた人たちや、心を動かされた人たちを取材し、群像劇として映画を制作している。

本書では、〃ハマのドン〃の闘いの過程や政治の動き、また誰がどう行動したのか、映画制作に至るまでの過程など、その舞台裏を綴^{つづ}った。

横浜のカジノ誘致断念は、保守かりべラルかというイデオロギーとは関係なく、市民の力が融合し、市民の手によって国策をなぎ倒してブレイキをかけた、最近では極めて特異な事例だ。本来、特異であってはならないのだが、政治が独善に走り、政治への諦めや無関心が広がる中で、国民の手に政治を取り戻す一つの示唆がある。

本書は、保守の実力者、ハマのドンがカジノ阻止で最高権力者と闘った記録だ。保守とは本来何か、人心が動くとはどういうことなのか、人がどう生きるかということを感じ取って頂けたらと思う。